

イーマ9月(第85回)例会のご案内

主催 特定非営利活動法人 アイエイチエムエージャパン 理事長 野口 哲英

共催 厚生労働、環境、国土交通、経済産業、農林水産各省認可東日本介護情報ネットワーク事業協同組合

梅雨明けも間近となりましたが、皆様には夏への準備はいかがですか。

さて、今回はメタボ対策第二弾としてアンコールにて大槲先生に再度ご登壇いただきました。先生はメタボの基準づくりに対する不透明で不公正な決め方、先進諸国では考えられない基準値、このままでは国民のおおよそ半分はメタボに指定され、その結果、医療機関・医薬品メーカーが潤い、更には医療業界への官僚の天下りが促進され、結果的には医療費が更に上がるといった結果を招くと指摘され、国民がもっと賢くならなければならないと警告されました。

講義の後の個別の質問では、「医師からメタボ」と言われ、薬を数種類処方され、減量した結果、活気を失いめまいを生じている。どうすれば良いか」に対して、むしろ多少メタボ(ちょいメタ)の方が健康で長生きすると指摘され、多くのメタボっぽい会員に安心と喜びを与えていただきました。

さて、今回は我国ホスピスの実践ならびに指導面での第一人者で人生の終末をいかに充実して幸せに終えるか(ピンピンコロリか病気で寝たきりでも苦痛から解放され充実した最期を迎える)を指導される**金重 哲三先生**をお招きして、自分自身、ならびに両親や家族の尊厳をどう守り、又自身が死にどう決着をつけるのか等々につきご講義いただき、死から逃げずしっかりと自覚したいと思っております。

尚、先生にはこの例会のために遠路岡山から当会のためにご上京されます。より多くの方々に是非参加いただきたく願っております。

記

日時:平成 20 年 9 月 18 日(木曜日) 18:00~20:00

テーマ「ガンの末期には手をつくしてはいけない~ 逝き方上手は生き方上手~」

講師 金重 哲三先生 特定医療法人鴻仁会理事長

<プロフィール> 昭和 24 年生。岡山大学医学部大学院博士課程修了。岡山大学医学部附属病院、香川県立中央病院勤務を経て、昭和 59 年より岡山中央病院泌尿器科現役医師となる。昭和 61 年より特定医療法人鴻仁会理事長に就任。コウジン・ヘルスケア・グループ統括責任者も務める。いのちの自己決定、医療の推進、患者の自立を支援できる医療者の育成に力を注いでいる。

著書:「末期ガンは手をつくしてはいけない」(中経出版)

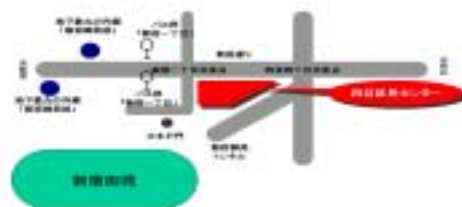
「それでも救急車を呼びますか 逝き方は生き方」(エピック)

会場:四谷区民センター 11 階 集会室 2・3

(新宿区内藤町 87)

地下鉄丸の内線「新宿御苑前」駅より徒歩 5 分

参加費:お一人様 2,000 円(当日受付)



ご氏名:

ご連絡先: 電話又は FAX

< 例会 >	ご出席	ご欠席	メールアドレス
--------	-----	-----	---------

ご参加は メール honbu@ihma.or.jp あるいは FAX: 03(5225)1522 でお返事ください。

『それでも救急車を呼びますか』 - 逝き方は生き方 - (エピック)より

- 第1章 ある日突然～誰にでも起こること～
 - 突然意識を失うとき
 - 「意識がなくなる」のはどういう時か
 - 望まれない治療が行われる時
- 第2章 救急医療の実態～“助かる”ことの意味～
 - 救急処置室（ER）でおこなわれること
 - 蘇生術の問題点
 - 心肺停止患者さんの行く末
- 第3章 事前指定書～自分らしく生き、逝くために～
 - 家で死ねない日本の事情
 - その時、あなたの意思を伝えるために
 - 北米の事情
 - 事前指定書の持つ矛盾

『末期ガンは手をつくしてはいけない』 (中経出版)より

- 覚悟して捨て、感謝して逝く
- 死を学ぶ 選択について
 - 「末期ガンです」と言われるのは、「ある日、突然」です
- 家族が大問題
- 医者も大問題
- 痛みとモルヒネについて
- 人工栄養で生かされるのは恨めしい
- 死に至る順調な経過を理解する
- 悔いのない逝き方 十七箇条